

海洋安全保障情報月報

2009年9月号



目次

2009年9月の主要事象

1. 情報要約

1.1 治安

1.2 軍事

1.3 外交・国際関係

1.4 海運・資源・環境・その他

2. 情報分析

2009年におけるアデン湾・ソマリア沖の海賊襲撃事案の状況

本月報は、公表された情報を執筆者が分析・評価し要約・作成したものであり、情報源を括弧書きで表記すると共にインターネットによるリンク先を掲載した。

発行者：秋山昌廣

執筆者：秋元一峰、犬塚 勤、今泉武久、上野英詞、國見昌宏、小谷哲男、友森武久、毛利亜樹、
高田祐子

本書の無断掲載、複写、複製を禁じます。

2009年9月の主要事象

治安：8月に続いて、9月もソマリアの海賊によるハイジャック事案がなかった。しかし、襲撃事案がなくなったわけではない。米運輸省海事局は9日、モンスーンの季節が終了したことから、「アフリカの角」周辺海域とインド洋において海賊襲撃事案の増大が予想されるとの警告を、海運業界に発した。

インド海軍は1日、アデン湾で2008年12月13日に臨検した海賊のダウ船から押収された武器を調査した結果、ソマリアの海賊が所持していた武器のほとんどにパキスタン軍需工場の印が押されていたことを明らかにした。

米アフリカ軍広報官によれば、米軍は、海賊対処活動のために数機のReaper無人偵察機を、10月後半あるいは11月までセイシェルに派遣し、インド洋海域で情報収集、監視および偵察任務を遂行する。

ソマリア海軍の中核となる最初の500人の募集要員の訓練が8日に完了し、ソマリアは、自力による沿岸哨戒に向けて第1歩を踏み出した。将来的には海賊を追跡できる戦闘艦艇の取得を期待しており、また最終的には5,000人規模の兵力を望んでいる。

「第4回ソマリア沖海賊対策に関するコンタクト・グループ(CG)」の会合が10日、ニューヨークで開催され、45カ国、9機関が参加した。会合の議長は日本代表が勤めた。会議後、声明が発表された。

中国海軍の第3次ソマリア派遣艦隊とロシア海軍の第3次ソマリア派遣艦隊は18日、アデン湾西部の海域で合同演習、「平和藍盾-2009」(“Blue Peace Shield 2009”)を実施した。中国海軍が2008年12月26日にソマリアに第1次艦隊を派遣して以来、アデン湾海域で外国海軍艦隊と合同演習は初めてである。

アデン湾の安全回廊を航行中のばら積み船が20日、海賊の小型ボートに接近されていると通報した。哨戒中の海自のP-3Cが小型ボート視認し、周辺の戦闘艦などに通報した。CTF-151に属するオーストラリア海軍フリゲートが小型ボートを臨検し、武器、弾薬を押収した後、ボートと海賊容疑者を解放した。

2.情報分析では、2009年におけるアデン湾・ソマリア沖の海賊襲撃事案の状況と各国及び機関の対応について取り纏めた。

軍事：米海軍の新型強襲揚陸艦、USS *Makin Island* (満載排水量4万6,295トン)は14日、メキシコ湾岸から南米南端周りで2カ月間の航行の後、太平洋岸のサンディエゴに入港した。同艦は10月24日に同基地で就役する。同艦は、ハイブリッドカーと同じ省エネ艦で、ガスタービン・エンジンと電気モーターを併用し、低速航行時には電気モーターを、高速航行時にはガスタービン・エンジンを使用する。

マレーシア海軍初のフランス製 *Scorpene* 級潜水艦、KD *Tunku Abdul Rahman* は17日、マレーシア東部サバ州の母港、Sepanggar 基地に到着した。アジス海軍司令官は歓迎式典で、この潜水艦は潜在的侵略者に対する抑止力であり、マレーシアの領土主権を護るために活用されるであろう、と述べた。

ロシア国営の原子力公社、Rosatom は、ロシア海軍から退役した原潜、198隻の内、191隻を2010

年後半までに解輻する。Rosatomによれば、現在、退役原潜は198隻で、その内、約25隻が未だ解輻されていないが、その大部分は解輻作業中で、2010年末までには、合計191隻の退役原潜の解輻が完了する。

外交・国際関係：中国外交部報道官は15日、日本が大陸棚限界委員会（CLCS）に提出した大陸棚外側の延長申請について、CLCSに対して、日本の大陸棚外側限界の延長申請を審議しないよう要請した。（日本は2008年11月12日、7カ所の海域について、大陸棚外側限界の延長申請を行った。）

海運・資源・環境・その他：商船三井（MOL）は、次世代の環境に配慮した自動車船構想を発表した。MOLによれば、次世代自動車船は、*ISHIN-1*と名づけられ、この船名のアルファベットには、「Innovations in Sustainability backed by Historically Proven, Integrated Technologies」と、「どんな経済環境にあっても、企業の成長持続と地球環境保護との両立を目指す当社の、歴史に裏付けられた技術革新」との意味が込められている。

16日付の英紙、*Daily Mail*（電子版）は、世界不況の影響で、シンガポール港南方50カイリのマレーシア・ジョホール州南端沖に海運史上最大隻数の商船が係留されているとして、長文の記事を掲載した。

格付け機関、Moody'sによれば、アジアの海運会社は、今後1年以内に自社船舶を債権者から差し押さえられる可能性があるという。世界的不況が始まって、貨物船の稼働率が大幅に落ち込み、その結果、多くの船舶は港外で係留されたままになっている。

スエズ運河庁によれば、2009年6月30日までの2008年度のスエズ運河収入は、前年比7.2%の減収となった。一方、通航船舶隻数も、前年度の2万1,080隻から1万9,354隻に減少した。

1. 情報要約

1.1 治安

9月1日「インド海軍、臨検海賊船からパキスタン製武器発見」(Shiptalk, September 1, 2009)

インド海軍は1日、駆逐艦、INS *Mysore* がアデン湾で2008年12月13日に臨検した海賊のダウ船、*Salahuddin* から押収された武器を調査した結果、ソマリアの海賊が所持していた武器のほとんどにパキスタン軍需工場の印が押されていたことを明らかにした。それによれば、押収したロケット推進擲弾筒とライフルは全てパキスタン製で、機関銃にもパキスタン軍需工場の印が押されていた。インド海軍は、インド人が乗り組む商船が何度もソマリアの海賊に襲撃されており、これを、ソマリアの海賊を使ったインドに対するパキスタンの秘密工作の証拠と見ている。(Salahuddin の臨検については、OPRF 海洋安全保障情報月報 2008年12月号 1.1 治安参照。)

9月2日「イラン、第3次艦隊をアデン湾に派遣」(Naval Technology, September 2, 2009)

イラン海軍は、2隻の戦闘艦からなる第3次艦隊をバンドル・アッパース港からアデン湾に派遣した。これは、8月28日に帰国した第2次派遣艦隊に代わるものである。第2次派遣艦隊は、約300隻のイラン籍船貨物船と50隻の外国籍船を護衛した。

9月2日「米軍、無人偵察機をセイシェルに派遣へ」(VOA News, September 2, 2009)

米アフリカ軍広報官によれば、米軍は、海賊対処活動のために数機の Reaper 無人偵察機を、10月後半あるいは11月までセイシェルに派遣する計画である。無人偵察機は、インド洋海域において、情報収集、監視および偵察任務を遂行する。陸上基地の無人偵察機の派遣は、海賊による船舶のハイジャック防止の新たなアプローチとなる。Reaper 無人偵察機は30時間の滞空能力を持ち、時速440キロ以上で高々度からの監視が可能である。また、武器も搭載できるが、セイシェルには非武装で派遣される。米海軍はこれまで、海賊対処活動に艦載無人機を使用してきたが、今回派遣される Reaper 無人偵察機は、マエ島の国際空港に基地を置く。これに伴って、数十人の米軍人および文民が同空港に派遣される。加えて、米軍は、広大なインド洋海域を哨戒するために、海軍の P-3C 海上哨戒機を一定期間、セイシェルに派遣することを検討している。

9月3日「UAE の船社、米警備会社要員を海賊対処に雇用」(Maktoob Shipping Business, September 3, 2009)

アラブ首長国連邦 (UAE) の船社、Sharaf Shipping Agency (SSA) は、アデン湾での海賊対処のために、米警備会社、Strategic Executive and Logistics Security Solutions (SEAL) から警備要員を雇用する契約を結んだ。それによれば、SSA は、自社船がジブチからオマーンのサララまでの海域を航行する間、SEAL の警備要員を搭乗させる。警備要員は、商船に関する国際法規に従って武器を携行しない。搭乗する警備チームは6人の要員と4頭の猛犬で編成され、フジャーラ、サララ、ジブチ及び紅海沿岸の幾つかの港を含む、指定港から乗下船することになる。SSA は、契約料などについては明らかにしていない。

9月4日「中国、最大の海上捜索・救難演習を実施」(Xinhua, September 4, 2009)

中国交通運輸部と浙江省の合同主催による建国以来最大規模の海上捜索・救難演習が4日、寧波の沖合の東シナ海で実施された。この演習の目的は、2010年の上海万博に備えて、海上捜索・救難、海上治安維持能力を演練することであった。演習には、艦艇35隻、航空機3機、人員1000人余が参加した。演習は、360人の乗客を乗せた客船と化学物資を積載した貨物船が衝突し、客船に火災が発生し、ベンゼンが漏洩したとの想定で、約1時間にわたって実施された。交通運輸部副部長で、中国海上捜索・救難センターの徐何祖所長は、演習は成功裡に終了し、建国以来60年間にわたって積み重ねてきた中国の海上救難能力を誇示することができた、と総評した。

9月5日「北朝鮮船、ソマリア海賊の襲撃撃退」(AP, September 15, 2009)

クアラルンプールの海賊通報センター (PRC) のノエル・チョーン所長が15日に明らかにしたところによれば、モガディシュ沖でエンジン修理を行っていた北朝鮮の貨物船は5日、10人の海賊が2隻のスピードボートで接近するのを視認した。貨物船は即座にエンジンをスタートさせ、海賊から離れると共に、船長は国際海事局 (IMB) に通報した。チョーン所長によれば、通報を受けた時、軍服を着た海賊は、ロケット推進擲弾筒と機関銃で該船を襲撃し始めた。乗組員は、ボトルに灯油をつめ、布などで火をつけた即席の火炎瓶で反撃し、更に遭難信号花火を海賊に向かって発砲し、船長は貨物船のスピードを上げ逃げ切った。船長が後に IMB に語ったところでは、米海軍戦闘艦が現場に到着したが、海賊は逃亡した後だった。該船の30人の乗組員の内、1人が負傷し、船体も損傷を受けた。

9月7日「ドイツ戦闘艦、海賊船を臨検」(Maritime Security Centre, Horn of Africa, Press Release, September 7, 2009)

EU艦隊 (EU NAVFOR) に所属するドイツ海軍フリゲート、FGS *Brandenburg* は7日、アデン湾のムッカー (イエメン) 南方沖で、5人の海賊容疑者が乗った小型高速ボートを停船させ、臨検した。FGS *Brandenburg* から発進したヘリがボートを発見し、停船を命じたが、海賊容疑者は武器や梯子を海中に投棄しながら逃亡を図ったので、船首に警告射撃を行った。FGS *Brandenburg* から発進した RHIB で停船したボートに向かった臨検チームが武器と共に、5人の海賊容疑者を拘束した。内、1人は負傷していたが、その後死亡した。

9月8日「ソマリア、500人の海軍要員の訓練完了」(AP, September 9, 2009)

ソマリア海軍の中核となる最初の500人の募集要員の訓練が8日に完了し、ソマリアは、自力による沿岸哨戒に向けて第1歩を踏み出した。新生ソマリア海軍のファラ・アーメッド (AD Farah Ahmed) 司令官によれば、海軍は首都、モガディシュに本部を、ボサーソ、ベルベラ、キスマヨに基地を置く計画である。この内、ベルベラはアデン湾に面した北部のソマリーランドにあり、比較的治安が良い。しかしながら、同じアデン湾に面したボサーソ周辺は海賊の巣窟であり、またインド洋に面した南部のキスマヨはイスラム反政府勢力の手中にある。しかも現在のところ、その戦力は十数隻の小型ボートに過ぎない。多くの民間警備会社は新生海軍の訓練に関心を示しているが、欧州の海軍関係者は、海軍の強化は結局のところより訓練された海賊を生み出すことになりかねないことを懸念している。一方、アーメッド司令官は、将来的には海賊を追跡できる戦闘艦の取得を期待しており、また最終的には5,000人規模の兵力を望んでいる。

9月9日「米運輸省、海賊襲撃事案の増大について警報」(AP, September 9, 2009)

米運輸省海事局は9日、モンスーンの季節が終了したことから、「アフリカの角」周辺海域とインド洋において海賊襲撃事案の増大が予想されるとの警告を、海運業界に発した。警告は、海賊に乗り込まれた場合には、船員に対して自ら防衛する意志を誇示し、すぐには降伏しないように勧告している。マツダ (David Matsuda) 局長代理は、「我々は、4月のMV *Maersk Alabama* 襲撃事案から教訓を学ばなければならない」と強調している。MV *Maersk Alabama* の乗組員は船長を人質に取られたが、決して降伏しなかった。最終的に米海軍は船長を救出した。(この事案の詳細は、OPRF 海洋安全保障情報月報 2009年4月号 1.1 治安参照。)

9月10日「第4回ソマリア沖海賊対策に関するコンタクト・グループ会合、開催」(外務省 HP、2009年9月10日)

「第4回ソマリア沖海賊対策に関するコンタクト・グループ (CG)」の会合が10日、ニューヨークで開催され、45カ国、9機関が参加した。会合の議長は日本代表が勤めた。会合後に発表された声明の要点は以下の通り。

- ①ソマリア暫定政府は、国際社会の海賊対策への努力、各国海軍戦闘艦の派遣に感謝を表明した。CGは、ソマリアの安定確立の鍵は海賊問題の究極的解決にあることを確認し、より安定したソマリアに向けて更なる努力が重要であることを再確認した。
- ②英国が担当する第1作業部会 (WG1) の作業に関連し、CGは、多国間の軍事協調メカニズムがうまく機能し、アデン湾における海賊襲撃の成功率が大幅に低下していることを歓迎した。CGはまた、「ジブチ行動指針」(the Djibouti Code of Conduct) の実施と密接に関連した、WG1による域内の海賊対処能力強化のためのニーズ・アセスメントの調査を歓迎した。CGは、今後作成される報告書を期待すると共に、海賊に対処し、より長期的には根源的問題を解決するための持続可能な措置として、ソマリアも含めた域内全体の海賊対処能力の強化のための迅速な行動が必要であることを確認した。
- ③CGは、日本提案による「IMO ジブチ行動指針マルチドナー基金」(the IMO Djibouti Code Trust Fund) の設置を歓迎した。CGは、ケニア、タンザニア及びイエメンに設置される「海賊情報共有センター」(the anti-piracy information sharing centre) とジブチに設置される「海賊訓練センター」(the training centre) が任務を開始することになれば、ソマリア周辺海域における海賊取締能力が一層強化されることに期待を表明した。
- ④キプロス、日本、シンガポール、英国、米国及び韓国は、「ニューヨーク宣言」(the New York Declaration) に署名した。この宣言は2009年5月29日にバハマ、マーシャル諸島、リベリア及びパナマが署名したもので、これら原署名国の登録船舶は全世界のGTの50%以上を占める。原署名国は、この宣言で、海賊の襲撃から船舶を防衛するための国際的に認められた、“Best Management Practices (BMP)” の普及を目指すとしている。CGは、「国際海事機関」(IMO) の努力とともに、この宣言を歓迎し、他の国に対しても、宣言の勧告を実施するよう慫慂した。

備考1：CG 声明英文全文・外務省 HP；

<http://www.mofa.go.jp/policy/piracy/communique0909.html>

備考2：「ニューヨーク宣言」；

<http://www.state.gov/r/pa/prs/ps/2009/sept/128767.htm>

備考3：BMP はアデン湾を航行するに当たっての船舶の「チェックリスト」で、このブックレット

は以下から入手可；

http://www.marad.dot.gov/documents/HOA_OCIMF_piracy_web.pdf

なお、2009年8月21日の改訂版については以下から入手可；

<http://www.ukpandi.com/UKPandi/Infopool.nsf/html/BMPPiracy>

9月14日「ソマリアの海賊、ギリシャ船を解放」(Trade Winds, September 14, 2009)

ソマリアの海賊は14日、ギリシャのばら積み船(セントビンセント&グラナディーン籍船)、MV *Irene EM* (3万8,340DWT)を解放した。身代金は200万米ドルとされる。乗組員22人は無事と見られる。該船は、ヨルダンからインドに向かう途中、4月14日にアデン湾でハイジャックされた。この時点で、ソマリアの海賊に最も長く拘留されている船は、4月6日にハイジャックされた台湾の漁船、FV *Win Far 161*で、他に拘留されているハイジャック船は、ギリシャのばら積み船、MV *Ariana* (5月2日)、ニュージーランドの一般貨物船、MV *Charelle* (6月12日)、トルコのばら積み船、MV *Horizon 1* (7月8日)である。

9月14日「スペイン、マグロ漁船への軍要員の乗船を認めず」(AP, September 15, 2009)

スペインの国防次官は14日、漁業業界が要求する漁船への軍要員の乗船は国内法に照らして認められない、と語った。現在インド洋で操業するスペインのマグロ漁船は14隻で、その大部分はバスク地方からの出漁である。スペインは、2009年1月に拳銃を携行した民間警備要員のマグロ漁船への乗船を認めたが、ソマリアの海賊がロケット推進擲弾筒などで武装しているために、拳銃では不十分であることが明らかになってきた。そのため、スペイン政府は現在では、漁船に乗船する民間警備要員が高性能ライフルを携行することを認めている。スペイン政府とバスク政府は、民間警備要員を雇用する船主に対する財政支援を検討している。

9月18日「中ロ両国のソマリア派遣艦隊、アデン湾海域で合同演習実施」(解放軍報電子版<アデン湾>、September 18、「チャイナネット」、September 20、and Xinhua, September 20, 2009)

中国海軍の第3次ソマリア派遣艦隊とロシア海軍の第3次ソマリア派遣艦隊は18日、アデン湾西部の海域で合同演習、「平和藍盾-2009」(“Blue Peace Shield 2009”)を実施した。中国海軍が2008年12月26日にソマリアに第1次艦隊を派遣して以来、アデン湾海域で外国海軍艦隊と合同演習は初めてである。中国海軍の第3次ソマリア派遣艦隊によれば、今回の演習では、①両国の艦隊の連絡と会合、②艦隊の機動航行、隊形変換運動、③手旗信号による通信、④洋上補給、⑤艦載ヘリと戦闘艦が共同で実施する海賊容疑船の臨検、⑥砲撃演習、⑦海上での合同観閲、などが実施された。演習には、中国側から第3次ソマリア派遣艦隊のミサイル駆逐艦「舟山」、同「徐州」、及び総合補給艦「千島湖」が参加した。ロシア側からは対潜艦、*Admiral Tributs*、給油艦、*Boris Butoma*、救難曳船、*MB-99*が参加した。

第3次艦隊の副指揮官、温新超は、①この演習は中ロ両国がアデン湾海域で護衛任務に当たってから初めての重要な協力であり、中国がこの海域で任務について以来初めて外国と行った共同軍事演習である、②この演習は中ロ両国の信頼を深め、国際海域の安全と安定のための両国の交流・協力を強化した、③中国海軍が外国軍と連携して多様な軍事的任務を遂行する能力を高めたことは重要であると強調した。

この演習に先立って、中国海軍のミサイル駆逐艦「舟山」とロシア海軍の対潜艦、*Admiral Tributs*

は9月10日から15日までアデン湾で合同の船団護衛を実施し、この間18隻の船舶を護衛した。(RIA Novosti, September 15, 2009.)

【関連記事】

「中ロ両国の派遣艦隊司令官、アデン湾で会談」(解放軍報電子版<アデン湾>、September 8, 2009)

ロシア派遣艦隊の司令官、アリオクミンスキー (RADM Sergei Aliokminski) 少将は6日、中国艦隊の招きに応じて、幕僚7人を伴って、ヘリで中国派遣艦隊のミサイル駆逐艦「舟山」を訪問し、中国艦隊の司令官、王志国少将らと会談した。双方は、ソマリア沖の海賊の特性、派遣艦隊の構成、護衛任務の戦術、護衛ルートなどについて情報交換を行うと共に、相互信頼に基づく護衛任務の協力などについて意見交換を行った。会談後、アリオクミンスキー司令官らは、艦内を視察した。

9月19日「海賊、南シナ海でLPGタンカーを襲撃」(Fairplay Daily News, September 21, 2009)

ReCAAP 情報共有センター (ISC) によれば、南シナ海のアナンバス諸島沖を航行中のシンガポール籍船のLPGタンカー、MT *Prospect* が19日、ナイフと山刀で武装した6人の海賊に襲撃された。海賊は、当直士官の頭部を殴打し、船長と1等航海士のキャビンに案内させ、彼らの現金と持ち物を奪った。海賊が該船から逃亡した後、乗組員は警報装置を作動させた。

9月20日「海自P-3C、不審船発見、豪州海軍戦闘艦が対処」(Maritime Security Centre, Horn of Africa, Press Release, September 21, The Sydney Morning Herald, September 23, 2009、防衛省HP)

アデン湾の安全回廊 (the Internationally Recommended Transit Corridor: IRTC) を航行中ののぼら積み船、MV *BBC Portugal* が20日、海賊の小型ボートに接近されていると通報した。該船には、イエメン沿岸警備隊チームが乗船しており、彼らを視認した海賊は接近を諦め、逃亡を図った。通報を受けたドバイの (The UK Maritime Trade Organization: UKMTO) が周辺の戦闘艦などに通報した。哨戒中の海自のP-3Cが小型ボート視認し、周辺の戦闘艦などに通報した。

その後、EU艦隊の属するドイツ海軍フリゲート、FGS *Bremen* から発進したヘリが警告射撃で小型ボートを停船させ、CTF-151に属するオーストラリア海軍フリゲート、HMAS *Toowoomba* のRHIBが小型ボートに接近した。小型ボートの8人の海賊容疑者は船首からはしごを海中に投棄した後、両手を挙げて臨検チームを待った。臨検の結果、ロケット推進擲弾筒1基、AK-47強襲ライフル6丁、G-3強襲ライフル1丁及び大量破壊兵器の弾薬が発見され、押収した後、ボートと海賊容疑者を解放した。

9月21日「パキスタンの港湾保安システム設置、JICA支援へ」(Daily Times, September 21, 2009)

パキスタンの当局筋によれば、パキスタン政府は、アラビア海沿岸の警備態勢を強化するために、新たな港湾保安システムの設置を計画している。それによれば、新システムは、テロ対処手段で、最新の船舶航行管理システム (vessels traffic management system: VTMS)、船舶自動識別システム (automatic identification system: AIS)、及びVHFによる海上安全通信システム (VHF global maritime distress and safety system: GMDSS) で構成され、カラチ、グワダル、オルマーラ、ジワニーの各港に設置される。この計画は、通信技術省の提案によるもので、費用は総額2,129万米ドル

と見積もられており、日本の JICA による贈与で賄われることになっている。計画は、2011 年 6 月に完成予定である。

9 月 26 日「トルコ海軍、7 人の海賊容疑者を拘束」(Bosphorus Naval News, September 27, 2009)

NATO 艦隊に所属するトルコ海軍フリゲート、TCG *Gediz* は 26 日、イエメン沿岸から 66 カイリ離れたアデン湾の安全回廊 (the Internationally Recommended Transit Corridor: IRTC) 内で、2 隻のパナマ籍船、MV *Handy V* と MV *Gem Of Cochin* を襲撃中の海賊容疑者 7 人を拘束した。TCG *Gediz* はヘリを発進させ、特殊部隊が彼らを拘束した。トルコ海軍が拘束した海賊容疑者は、これで 24 人となった。

1.2 軍事

9 月 2 日「米海軍作戦部長、‘Guidance for 2010’ を発表」(Navy News Stand, September 2, 2009)

米海軍のラヘッド (ADM Gary Roughead) 作戦部長 (Chief of Naval Operations: CNO) は 2 日、‘the CNO Guidance for 2010’ を公表した。‘Guidance for 2010’ は、‘Guidance for 2009’ の成果を確認すると共に、2010 年における海軍の建設方針を示すものである。‘Guidance for 2010’ は、‘Guidance for 2009’ に示された 18 項目の施策を継承すると共に、2010 年の重点項目として、①あらゆる海洋任務を遂行する優勢かつ即応態勢の海軍力を引き続き目指す、②適切な戦力構成と戦略を持つ海軍を建設する、③決定的な優位を達成する、④戦力所要、資源及び取得過程を適正化する、⑤国際的なパートナーシップを確立することを挙げている。

備考：‘The CNO Guidance for 2010’ は以下から入手可；

<http://www.navy.mil/features/CNOG%202010.pdf>

9 月 7 日「インドネシアの次期潜水艦、韓国製かロシア製から選定へ」(Antara News, September 8, 2009)

インドネシアは、2 隻の潜水艦を 2011 年か 2012 年に配備する計画で、購入先の選定を進めていた。当初、購入先として、ドイツ (*U-209* 級)、韓国 (‘張保臯’級)、ロシア (*Kilo* 級) 及びフランス (*Scorpene* 級) が候補に上がっていた。しかし、国防省国防施設局長のヘリヤント (Eris Heryanto) 空軍少将が 7 日に明らかにしたところによれば、購入先は韓国かロシアに絞られた。もし韓国が選定されれば、インドネシアは、2 隻の SS-209 型 ‘張保臯’ 級を装備することになる。SS-209 型は、ドイツの Type 209-1200 をベースに韓国でライセンス生産されている潜水艦で、静粛性に優れ、高度な電子機器を装備している。他方、ロシアの *Kilo* 級については、インドネシアは 2007 年 9 月に、2 隻の *Kilo* 級 Type 636 を発注し、更に最大 8 隻の追加納入オプションを計画していたが、財政上の理由から中止され、改めて 2011 年か 2012 年に 2 隻のみを購入することになった。プルジヤトノ (AD Tedjo Edhy Purdijatno) 海軍司令官は、購入する潜水艦が近隣諸国の潜水艦と同等の戦闘能力を持つべきであるとして、「我々は、2 隻の潜水艦が我が国の抑止力を高めることを期待している。潜水艦は単なる兵器ではなく、戦略的な兵器である」と強調している。

9月14日「米海軍の省エネ型強襲揚陸艦、サンディエゴ入港」(San Diego Union-Tribune, September 15, 2009)

米海軍の新型強襲揚陸艦、USS *Makin Island* (満載排水量4万6,295トン)は14日、メキシコ湾岸のミシシッピ州パスカゲーラの造船所から南米南端周りで2カ月間の航行の後、太平洋岸のサンディエゴのNorth Island Naval Air Stationに入港した。同艦は10月24日に同基地で就役する。同艦は、ハイブリッドカーと同じ省エネ艦で、ガスタービン・エンジンと電気モーターを併用し、低速航行時には電気モーターを、高速航行時にはガスタービン・エンジンを使用する。同艦艦長によれば、今回の処女航海で通常の航海より200万ドル以上の燃料費に相当する、90万ガロンの燃料を節約した。海軍は、同艦のライフサイクルを通して、2億5,000万ドル相当の燃料費を節約できると推測している。

9月17日「マレーシア海軍初の潜水艦、母港に到着」(The Star, September 18, 2009)

マレーシア海軍初のフランス製 *Scorpene* 級潜水艦、KD *Tunku Abdul Rahman* は17日、マレーシア東部サバ州の母港、Sepanggar 基地に到着した。アジス (ADM Abdul Aziz Jafaar) 海軍司令官は歓迎式典で、この潜水艦は潜在的侵略者に対する抑止力であり、インドネシアと係争中のスラウェシ海の Ambalat やコタキナバル沖約150カイリの Turumbu Layang 周辺海域など、マレーシアの領土主権を護るために活用されるであろう、と述べた。マレーシアは今後、更に数隻の *Scorpene* 級潜水艦の取得を計画しているが、これは、シンガポールの潜水艦取得、インドネシアの潜水艦取得計画など、域内の海軍軍備競争に対応するためと受け止められている。

9月18日「中国の海軍外交—その軌跡と狙い」(CSIS, Pacific Forum, PacNet #63, September 18, 2009)

シンガポールの the S Rajaratnam School of International Studies の客員研究員、Loro Horta は、近年の中国海軍による海軍外交の軌跡とその狙いに関する論説で、要旨以下の諸点を指摘している。

- ①近年、中国海軍は、多くの外国港湾への友好訪問や合同演習を実施してきた。2007年には、海軍戦闘艦は、11カ国を訪問した。また、海軍は、フランス、スペイン、英国及びロシアと合同演習を実施すると共に、一方では2隻の戦闘艦がオーストラリアとニュージーランドを訪問し、同時期に他の2隻がパキスタンを訪問した。8隻の戦闘艦が同時期に3つの異なった海域に展開したことは、中国にとって海軍外交が重要性を増していることを示すと共に、海軍の作戦行動能力の向上をも示唆している。2008年には、海軍戦闘艦がアジアと欧州の8カ国を訪問し、一方、海軍代表団はアジア、欧州、南米及びアフリカの17カ国を訪問した。2009年4月には、海軍創設60周年の国際観艦式を実施し、米国、オーストラリアを含む14カ国の戦闘艦が参加した。
- ②海軍外交における諸外国との教育交流も重要性を増している。2008年には、40カ国からの97人の海軍将校が中国海軍の諸学校を卒業した。一方、中国からは、多くの将校が外国の軍学校に短期あるいは長期留学している。2007年には、十数人の海軍将校がシンガポール、オーストラリア及び欧州の大学で大学院課程を修了している。
- ③海軍装備の供与も中国の好意を示す手段として活用されている。中型、小型の艦艇が、ボリビア、モーリシャス、タンザニア、ミャンマー、カンボジア、シエラレオネなどに供与されてきた。中国はまた、34カ国で海軍施設の建設や修理を支援すると共に、通信機器などの装備を供与している。
- ④海軍は2008年10月、1万トンの病院船を就役させた。この病院船は青島を基地とし、人道的支援を担う米海軍の病院船、USNS *Mercy* のように、海軍外交の重要な担い手となる。また、ソマリ

ア沖の海賊対処活動も、中国海軍の重要な外交手段となっている。

- ⑤増大する海軍外交の背景には、まず、中国の軍事力の拡充と近代化を、平和的なものであり、地域の安定に資するものであると位置付けたいとする、中国の熱意がある。また、海賊対処活動などについて国内メディアが大々的に報道し、海軍大国振りを国内に印象づけることで、共産党政権の基盤強化を図ると共に、海軍外交によって大国としての中国の威信を世界に高める狙いもある。
- ⑥海軍戦闘艦の諸外国への訪問や合同演習は、海軍のドクトリンや戦闘技量の向上に資することになる。2007年9月に英国海軍の空母と合同演習を実施したことは、2020年以前の空母取得を目指す海軍にとって、大きな価値があった。また、外国訪問のための長期間の航行は、外洋海軍を目指す中国海軍の長距離作戦行動能力を強化することになる。
- ⑦中国の海軍外交は、大国化への中国の重要な戦略となっている。しかし、それは2つの異なったメッセージを発進している。即ち、一方で中国海軍は諸外国の海軍との接触の機会を通じてより透明性を高めてきているが、他方でその戦力を強化し、それを世界に誇示することに益々自信を深めているということである。

9月18日「インド、ステルス駆逐艦2番艦進水」(Defense News, September 21, 2009)

インド海軍は18日、ステルス駆逐艦3隻の建造計画、Project-15-A、*Kolkata*級の2番艦、INS *Kochi*を国営 Mazagon Dock 造船所(ムンバイ)から進水させた。INS *Kochi*は、インド海軍の次世代誘導ミサイル駆逐艦で、国産の BrahMos 対艦巡航ミサイル、連装魚雷発射管、対潜ロケットランチャー、AK-630速射砲4門、中射程対空砲などを装備する。就役は、2011年5月の予定である。

9月29日「ロシア、2010年後半までに原潜191隻を解輦」(RIA Novosti, September 29, 2009)

ロシア国営の原子力公社、Rosatomは、ロシア海軍から退役した原潜、198隻の内、191隻を2010年後半までに解輦する。Rosatomによれば、現在、退役原潜は198隻で、その内、約25隻が未だ解輦されていないが、その大部分は解輦作業中で、2010年末までには、合計191隻の退役原潜の解輦が完了する。ロシアは、米国、英国、カナダ、日本、イタリア及びノルウェーとの間で、原潜解輦に関する協定を結んでいる。解輦作業はまず、使用済み燃料棒が原潜の原子炉から撤去され、貯蔵施設に移される。その後、船体を3つの部分に切断する。船首と船尾は撤去され、破壊される。原子炉部分は密封され、貯蔵施設に移されることになっている。

1.3 外交・国際関係

9月15日「中国外交部、日本の申請を審査しないよう大陸棚限界委員会に要請」(新華網、September 15, 2009)

中国外交部の姜瑜報道官は15日、日本が大陸棚限界委員会(CLCS)に提出した大陸棚外側の延長申請について、「我々は、大陸棚委員会が国連海洋法条約のメカニズムを通してこの問題を適切に処理することを希望する」と述べ、CLCSに対して、日本の大陸棚外側限界の延長申請を審査しないよう要請した。備考：日本は2008年11月12日、7カ所の海域について、大陸棚外側限界の延長申請を行った。(なお、日本の大陸棚外側限界申請書の英文サマリーは総合海洋政策本部HPからアクセス可能。)

1.4 海運・資源・環境・その他

9月2日「川崎汽船、中国鞍山鋼鉄集団と豪州産鉄鉱石の長期輸送契約締結」(Trade Winds, September 2 and K Line HP, September 2, 2009)

川崎汽船は2日、中国の鞍山鋼鉄集団(本社:遼寧省鞍山市)との間で、ケープサイズ型(17万トン型)ばら積み船によるオーストラリア産鉄鉱石の長期輸送契約を締結した。契約期間は2009年10月から10年間で、オーストラリアから中国遼寧省まで年間約150万トンの鉄鉱石を輸送する。鞍山鋼鉄集団は中国第2の鉄鋼メーカーで、2008年の粗鋼生産量は2,340万トンであった。

9月10日「商船三井、自動車船の未来像を提示」(Marine Log, September 10, and MOL HP, September 10, 2009)

商船三井(Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.: MOL)は、次世代の環境に配慮した自動車船構想を発表した。MOLは、次世代のフェリー、バルカー、タンカー、更にはコンテナ船についても開発構想を進めている。MOLのHPによれば、次世代自動車船は、*ISHIN-1*と名づけられ、この船名のアルファベットには、「Innovations in Sustainability backed by Historically Proven, Integrated Technologies」と、「どんな経済環境にあっても、企業の成長持続と地球環境保護との両立を目指す当社の、歴史に裏付けられた技術革新」との意味が込められている。主な特徴は以下の通りである。①港内航行中及び荷役中:CO₂排出ゼロを達成。更に、通常の自動車船用に使用する再生可能エネルギーの開発。高能力ソーラー発電パネルと充電式電池の使用によるCO₂排出ゼロ目標の実現。②航行中:CO₂排出量50%削減。環境に対する船舶の負担を大幅に軽減するための多様な新技術の採用することで、6,400台の積載能力を持つ通常の自動車船と比較して(単位台数当たり)41%のCO₂排出量削減。更に将来的には船体を大型化することで、50%のCO₂削減が可能。

備考:MOL HP; <http://www.mol.co.jp/ishin/carcARRIER/future/index.html>

9月16日「海運史上最大の係留商船隊出現、シンガポール沖」(Daily Mail Online, September 16, 2009)

16日付の英紙、*Daily Mail*(電子版)は、世界不況の影響で、シンガポール港南方50カイリのマレーシア・ジョホール州南端沖に海運史上最大隻数の商船が係留されているとして、長文の記事を掲載した。以下はその要旨である。

- ①係留商船隊の規模は夜間になるとはつきりする。マレーシア側から見れば、水平線の端から端まで係留船舶のライトが輝いている。地元の漁民によれば、漁船で船の近くを通っても、人影が見えず、幽霊船のようだという。昼間には、パナマやバハマ諸島などの旗国の旗が視認できる。実際、係留船舶の大部分は世界の海運大手が運航する船舶である。
- ②世界の公海のラクダといわれるアフラマックス型の原油タンカーは、船幅約106フィート、13万2,000DWT以下のタンカーで、黒海、北海、カリブ海、シナ海及び地中海沿岸、あるいは大型タンカー(VLCC)や超大型タンカー(ULCC)では通航不可能な港湾や運河をもつOPEC非加盟の石油輸出国で使用される。2年前であれば、この型のタンカーは頻繁に航行していたであろうが、現在では、12%が運航していない。8万トンの原油を積載できるアフラマックス型タンカーのチャーター料は、2008年9月には1日当たり3万1,000ポンド(5万米ドル)であったが、現在では約3,400ポンド(5,500米ドル)である。

- ③コンテナ船のチャーター料も例外ではない。例えば、40 フィート・コンテナを中国から英国に輸送するコストは、2008 年の 850 ポンドと燃料チャージであったが、2009 年には 180 ポンドになっている。原料輸送に適した「ばら積み船」1 隻のチャーター料は、2008 年夏の 18 万 5,000 ポンド (30 万米ドル) から 2009 年初めには 6,100 ポンド (1 万米ドル) になった。ばら積み船については、中国の鉄鉱石などの原料輸送需要で、最近数か月、やや持ち直しているが、世界貿易全体から見れば小規模であり、またコンテナ船の需要見通しも暗い。
- ④一部の専門家は、コンテナ船の係留率は、2 年以内に 25%まで増大するであろうと見ている。ロンドンの船舶ブローカー最大手、Clarksons の幹部は、コンテナ船は特に打撃が酷いとして、2006 年と 2007 年にはコンテナ船需要は 11%の増大であったが、2008 年には 4.7%減となり、2009 年に最大 8%の落ち込みが予想される、と語っている。船舶 1 隻当たりの運航コストが 1 日当たり 7,000 ポンドで、1 日当たりのチャーター料が 6,000 ポンドとすれば、係留率は増えるであろう。しかも、この幹部によれば、一方で、コンテナ船の就役が増えている。2009 年は、最大 8%の需要の落ち込みが予想される中で、就役船が 12%程度増大する。結局、20%が係留船となろう。
- ⑤造船業界も新規受注はほとんど見込めない。造船は受注契約から配船まで 3 年かかる。例えば、韓国の造船業界は、2006 年と 2007 年に受注した船舶を建造しており、これらの船舶は完成すれば、もはや必要とされない海に乗り出すことになる。海運大手の Maersk はこのほど、アジア諸国に発注している 39 隻のタンカーと精製品タンカーについて契約内容を再交渉する、と発表している。
- ⑥Lloyd's List のアジア版編集長によれば、船舶需要がピークにあった 2005 年には、各船社は、アジアと欧米間の海運ブームに乗ってあらゆる船舶、特にコンテナ船の発注を競った。特に、英国、ヨーロッパ諸国及び北米の消費ブームが、中国の原料輸入需要と共に、この船舶発注競争をあおった。これらの船舶のほとんどは今後 6 カ月から 9 カ月間に就役すると見込まれるが、これらの船舶は、古い船を犠牲にして運航されることになる。古い船は、スクラップにされるか、あるいはマレーシア南端沖などに係船されることになる。その上、一部の船社は、船舶完成時に建造費の支払いが出来ない可能性もあると見られる。通常、発注船社は、発注時に総額の 10%を支払い、以後 3~4 回に分けて支払うが、配船時に 50~60%を支払う。韓国の現代重工はこのほど、イラン国営海運会社から 6,000 万ポンド (1 億米ドル) で受注した 3 隻のコンテナ船を、同海運会社が支払いできないとしたことから、売却せざるを得なくなった。

【関連記事】

「アジアの海運会社、軒並み減収」(Financial Times, September 23, 2009)

格付け機関、Moody's によれば、アジアの海運会社は、今後 1 年以内に自社船舶を債権者から差し押さえられる可能性があるという。世界的不況が始まって、貨物船の稼働率が大幅に落ち込み、その結果、多くの船舶は港外で係留されたままになっている。アジアの海運会社で、例えば、香港の世界的大手、Orient Overseas Container Line は 8 月には 37%の減収を記録した。他に、韓国の韓進海運は 38%、シンガポールの Neptune Orient Lines は 37%、台湾の長栄海運は 35%、それぞれ減収となった。これらのアジアの海運会社は、過剰な稼働船舶に加えて、新造船が引き続き建造されているため、2012 年以前には業績の回復が見込めないと見られている。

9 月 30 日「スエズ運河、2008 年度減収」(Trade Winds, September 30, 2009)

スエズ運河庁によれば、2009 年 6 月 30 日までの 2008 年度のスエズ運河収入は、前年比 7.2%の減

収となった。2008年度の収入は、前年度の51億米ドルから47億4,000万米ドルに減少した。一方、通航船舶隻数も、前年度の2万1,080隻から1万9,354隻に減少した。2008年度の通航貨物量は、8億1,140万トンで、前年度から8.9%減となった。これは、貿易不況に加え、一部の船主が海賊襲撃を避けるために南アフリカ周りの航路を取っていることが原因である。

2. 情報分析

2009年におけるアデン湾・ソマリア沖の海賊襲撃事案の状況

アデン湾・紅海及びソマリア沖のいわゆる「アフリカの角」周辺海域における、航行船舶に対する海賊襲撃事案は、特に2008年9月から2009年4月にかけて、大幅に増大した。しかも、ソマリアの海賊は2009年3月頃から、ソマリア沿岸から遠く離れたインド洋にまで襲撃海域を拡大している。この海域は例年、5月初めから9月初めまで南西モンスーンの季節で海が荒れ、襲撃事案が少なくなる。9月以降、再び襲撃事案の増大が予測されたが、8月と9月のソマリアの海賊によるハイジャック事案はゼロであった。

一方で、主要海運国は2009年に入って、2008年後半の数次の国連安保理決議に基づいて、海軍戦闘艦や航空機を派遣し、本格的な海賊対処活動に乗り出した。2009年9月現在、20カ国余の主要海運国が30隻を超える戦闘艦や航空機を派遣し、組織的あるいは個別に海賊対処活動を行っている。また、国際海事機関(IMO)や国際海事局(IMB)といった国際機関、そして海運業界も各種の対応策を講じてきている。

以下は、各種の資料から、2009年におけるアデン湾・ソマリア沖の海賊襲撃事案の状況と各国及び機関の対応について取り纏めたものである。

1. 海賊グループの実態

ソマリアでは、1991年に当時のバールレ独裁政権が倒されて以来、全土を実効支配する中央政府を欠き、地方軍閥が割拠する状況が続いている。ソマリア暫定連邦政府(the Somali Transitional Federal Government)は、首都、モガディシュを中心に中部を支配している。しかし南部地域では、イスラム武装勢力、「アルシャハブ」(Al Shabaab)が支配的で、暫定連邦政府軍と抗争を繰り返している。また、北部地域には、ソマリーランドとプントランドの2つの自治区が存在する。(日本政府は、暫定連邦政府軍を政府承認していない。)

このソマリアの内情が、周辺海域において海賊が跳梁跋扈する最大の要因といわれる。2008年10月7日の国連安保理決議第1838が、海賊襲撃事案の根絶のためには、何よりもソマリア国内における平和と安定、国家機関の強化や法の支配の確立が必要であると強調している所以である。

潘基文・国連事務総長が2009年3月18日に公表した、ソマリアに関する事務総長報告書によれば、ソマリアの海賊には2つの主要な海賊ネットワークが存在し、ソマリア沿岸、特に北東部と中央部の漁業地域をルーツとしており、それは氏族を基盤とするソマリアの社会構造を反映しているとして、以下のように指摘している。

①ソマリアには、2つの主要な海賊ネットワークが存在する。1つは、プントランド(Puntland)地方で、もう1つは南部のムドゥグ(Mudug)地方である。プントランド地方で最大のグループはインド洋に面したエイル(Eyl)地区を根拠地としている。この地方には、Bossaso、Qandala、Caluula、Bargaal及びGaracadを根拠地とする小グループも存在する。

②ムドゥグ海賊グループは、ハーラーデーレ(Xarardheere)を根拠地としている。2008年9月に戦車などの軍装備を積んだウクライナのローロー船、MV *Faina*をハイジャックしたのは、このグループである。このグループは、2008年9月から2009年2月の5カ月間で、他に3隻の船舶をハ

イジャックした。これらのグループの一部は、軍事能力と人的資源の面で、現在のソマリア暫定連邦政府当局に対抗する存在と見なされている。

これら海賊グループの資金源がハイジャック船舶の解放に当たって、海賊が要求する身代金である。海運業界の業界誌、*Fairplay International Shipping Weekly* (May 14, 2009) は、ソマリアの海賊の実態はメディアが報じる日和見的な氏族の武装集団とは懸け離れたもので、西側や中東の投資家による合法的なビジネスに支えられているとして、要旨以下のように報じている。

- ①ニューヨークの法律事務所の関係者は、「投資家は海賊行為の立役者であり、彼らは、アラブ首長国連邦において襲撃のための資金の調達、ボートの提供や多くの投資を行っている」と見ている。別の関係者は、現金による身代金の支払いが巨額になっており、1隻当たり平均120～200万米ドルに達していることを指摘して、海賊行為は単なるビジネスと見なされている、と語った。
- ②こうして得た巨額の資金とこれまでのハイジャックの実績によって、海賊は、襲撃を成功させるために、広範な情報にアクセスすると共に、多くの情報提供者を抱えている。これまでより大型のボートを使うなど、最近数カ月の広い海域における襲撃事案の増大について、これらは、海賊の背後にいる法執行機関の一部の要員と結託したソマリアのビジネスマンによる資金提供のお陰であると見られている。しかし、身代金は広く分散されているともいわれる。例えば、200万米ドルのほんの一部が銀行に入金され、3分の1がハイジャッカーに渡され、10%がソマリアの地方当局に渡っているという。

同誌によれば、これまでに幾つかの海賊グループの存在が確認されているが、彼らの戦術や目的は同じであり、海賊はソマリアの各地域から集まり、地域を越えた犯罪ネットワークを組織している地方軍閥に忠誠を誓っている。従って、海賊行為は疲弊したソマリア経済を強化しているため、ソマリアの氏族集団が海賊撲滅を優先事項にすることはなさそうである、と同誌は見ている。

2. 海賊襲撃事案の発生件数の推移

表1は、IMBの報告書などから、最近5年間のアデン湾・紅海及びソマリア沖における未遂事案を含む海賊襲撃事案の発生件数の推移を示したものである。

表1：最近5年間のアデン湾・紅海及びソマリア沖の海賊襲撃事案発生件数の推移（未遂事案を含む）

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
アデン湾・紅海	10	10 (B1)	13 (H1)	92 (B2, H32)	117 (H19)
ソマリア	35 (B1, H15)	10 (H5)	31 (H11)	19 (H10)	50 (B1, H12)
合計	45 (B1, H15)	20 (B1, H5)	44 (H12)	111(B2, H42)	167(B1, H31)

出典：ロンドンの国際海事局 (ICC International Maritime Bureau) 公表の各年版、“Piracy And Armed Robbery Against Ships: Annual Report”より作成。但し、2009年については、9月30日までで、1月1日から6月30日までの件数については、“Piracy And Armed Robbery Against Ships: Half Year Report 2009”による。7月1日から9月30日までの件数については、Worldwide Threat to Shipping Mariner Warning Information (Office of Naval Intelligence Civil Maritime Analysis Department, U.S. Navy)の週間レポートから集計した。

備考：各年の数字は未遂事案を含む、全襲撃件数を示す。カッコ内の数字は既遂事案の内訳で、BはBoarded（船舶への乗り込み事案）、Hは船舶のハイジャック事案の件数である。

注：ソマリアの件数には、セイシェル近海のインド洋、オマーン沖を含む。

表1に示すように、2008年になって、特に8月からアデン湾での襲撃事案の激増振りが目立った。ソマリア沖の場合は、発生件数自体は減少しているが、ソマリアの東部及び南部沿岸海域でも襲撃事案が再発しつつあり、遠くケニア、タンザニア沖でも襲撃事案が発生し始めたのが特徴である。そして、2009年に入ると、ソマリア周辺海域の海賊襲撃事案に変化が見られるようになってくる。IMBの2009年上半期報告書(1月1日～6月30日)によれば、この海域での発生件数は、6月30日までで既に2008年通年での発生件数を超えている。しかしながら、特にアデン湾では、2009年に入って各国海軍の戦闘艦による哨戒活動が強化されるにつれ、襲撃件数に比して、ハイジャック成功率が低くなってきている。上半期報告書は、各国海軍の戦闘艦がアデン湾に展開し、加えてこの海域を航行する各船の船長が海賊予防対策を強化するにつれ、襲撃事案自体はそれほど減少していないが、この海域でのハイジャック成功事案は大幅に低下してきた、と指摘している。

他方で、2009年3月頃から、各国海軍戦闘艦が展開していない、ソマリア東岸のインド洋での襲撃事案が増える傾向にある。上半期報告書は、ソマリアの海賊は、ますます大胆な行動を取るようになってきており、ソマリア東岸のインド洋に襲撃海域が拡散してきており、ケニア沖、タンザニア沖、セイシェル沖、更にはマダカスカル沖にまで拡散している。これらの海域では、海賊は「母船」を使用していると見られ、一部の襲撃事案は沿岸から600カイリ以上離れた海域で発生している、と指摘している。

バーレーンの合同海軍部隊は6月9日、船舶向けの警告メッセージを更新し、南西モンスーンの季節が始まったことから、航行船舶に対してソマリア東岸沖の新たなルートを航行するよう勧告すると共に、襲撃のための洋上プラットフォームとして大型の船舶を「母船」として使用することで、海賊の行動範囲がソマリア東岸沖からセイシェル周辺まで拡大していることに加えて、紅海南部にも襲撃範囲が拡大する兆しがあると警告した。また、最近夜間の襲撃が増加していることから、危険海域を通航する場合は、船舶は昼夜を問わず厳重な監視を取るよう、勧告している。2008年から2009年の始めまでは、アデン湾では襲撃事案の大部分が昼間であったが、最近では、海賊は夜間に、しかもソマリア東岸から遠く離れた海域で船舶を襲撃している。(Combined Maritime Forces Public Affairs, Press Release, June 9, 2009)

3. 襲撃方法と襲撃されやすい船舶のタイプ

ソマリアの海賊がハイジャックした船舶は、表2に見るように、比較的乾舷の低い、低速(15ノット以下)で、乗組員の少ない(平均20人前後)船舶が平均的である。海賊は通常、ハイジャックした船舶や特別仕立てたと見られる洋上の「母船」から、2～5隻の小型高速ボートで目標船を襲撃する。海賊は目標船に乗り込むために、先端にフックが付いた縄梯子やアルミ製の梯子を装備している。また、海賊は重装備で、AK-47強襲ライフルや機関銃からRPG-7ロケット推進擲弾筒まで装備しており、目標船を停船させて乗り込み、乗組員を制圧するために、これらの武器を使用する。しかしながら、ソマリアの海賊は、身代金交渉では人質が最大の資産であることを心得ており、従って、乗組員を傷つけないで目標船をハイジャックするのが彼らの狙いである。

IMBの報告書によれば、ソマリアの海賊に襲撃された船舶のタイプでは、「ばら積み船」、「ケミカル・精製品タンカー」、「コンテナ船」などが多い。2009年のハイジャック事案で特異なものとしては、ソマリアの海賊が4月8日に初めて米国籍船を襲撃し、一時占拠する事案があった。米国籍船のコンテナ船、MV *Maersk Alabama* は4月8日、アデン湾南方の海域で海賊に襲撃され、一時占拠された。該船の乗組員は20人の米国人で、海賊は、船長を該船の救命ボートに拉致し、人質とした。その後、

米海軍特殊部隊、SEAL の狙撃班は 12 日夕、船長の救出作戦を実行し、船長を救出すると共に、海賊 3 人を射殺した。この事案は、米海軍による初めての武力解放となった。

表 2 は、2009 年上半期のアデン湾・ソマリア沖における、代表的なハイジャック船の諸元である。

表 2 : 2009 年上半期のアデン湾・ソマリア沖における、代表的なハイジャック船の諸元

Name	Type	GRT	DWT	乾舷(ft)	速度(k)	乗組員
<i>Blue Star</i>	General Cargo	6,168	7,032	7	15	28
<i>Sea Princess II</i>	Product Tanker	1,902	3,399	2	12	15
<i>Longchamp</i>	LPG Tanker	3,415	4,318	5	13	13
<i>Saldanha</i>	Bulk Carrier	38,886	75,707	17	14.5	22
<i>Bow Asir</i>	Chemical Tanker	14,626	22,847	9.5	15.5	27
<i>Nipayia</i>	Chemical Tanker	5,357	8,742	8	13	19
<i>Hans Stavanger</i>	Containership	15,988	20,526	11	18	24
<i>Malaspina Castle</i>	Bulk Carrier	21,173	32,587	14	15	24
<i>Buccaneer</i>	Tug & Barge	1,672	2,524	4	12	16
<i>Irene E. M.</i>	Bulk Carrier	21,947	32,025	9	13	22
<i>Pompei</i>	General Cargo	1,482	1,220	2	9	10
<i>Patriot</i>	Bulk Carrier	19,795	31,838	13	14	17
<i>Ariana</i>	Bulk Carrier	37,955	69,041	17	12.5	24
<i>Victoria</i>	General Cargo	7,767	10,683	9	14.7	11
<i>Horizon 1</i>	Bulk Carrier	21,630	34,173	14	11.5	23

出典 : U.S. Department of Transportation, Maritime Administration, Horn of Africa Piracy, List of Ships Seajacked から作成。

EU 艦隊司令部作戦部長、ノースウッド英海軍准将は、ソマリアの海賊による船舶の襲撃方法について、要旨以下のように語っている。

①ソマリアの海賊の襲撃方法については、北部から南部まで多様である。アデン湾に面したプントランド自治区を根拠地とする海賊は、目標船への乗り込みに梯子を使うことを好む。海賊の使う小型ボートでは、梯子が先端から 3~4 フィートはみ出している。また、ボートには防水シートが備えてあり、その下に、数人の海賊が隠れていたり、また AK-47 やロケット推進擲弾筒などの武器が隠されていたりする。一方、ソマリア東岸のホビョウを根拠地とする海賊は、フック付きのロープを好む。

②海賊は、洋上で一夜を明かし、未明か早朝に目標船に接近する。通常、海賊は目標船の背後から左舷に近づき、乗り込みのために乾舷が最も低くなっている箇所を選ぶ。海賊は目標船からの高压放水や有刺鉄線などの非致死性手段で阻止されることもあるが、彼らはしばしば、AK-47 強襲ライフルや RPG-7 ロケット推進擲弾筒を無差別に発砲しながら、目標船に乗り込もうとする。これで、多くの死者が出ないのが不思議である。(BBC News, February 11, 2009)

4. 各国、機関の海賊対処活動

各国及び機関は、累次の国連安保理決議に基づいて、ソマリア周辺海域に海軍戦闘艦や海上哨戒機

を展開している。

(1) EU

EU 外相理事会は 2008 年 12 月 8 日、ソマリア沖海賊対処任務 (Operation “Atalanta”) を始動することに合意した。EU 艦隊 (EUNAVFOR) は、加盟各国派遣の海軍戦闘艦や海上哨戒機で構成され、アデン湾海域の哨戒とソマリアへの国連世界食糧計画 (WFP) の食糧支援船のエスコートを任務としている。EU は、オンライン調整センターとして、Maritime Security Centre, Horn of Africa (MSC-HOA) を開設し、航行する船舶に関する運航情報の登録を受け付けたり、脅威情報を提供したりしている。EU 各国は 2009 年 5 月 19 日、ソマリアの海賊に対する哨戒活動をセイシェル海域まで拡大することに合意した。これは、各国派遣艦隊がアデン湾海域に集中するに伴って、海賊がソマリア沿岸から約 700 カイリも離れたセイシェル諸島にかけてのインド洋にまで活動海域を拡大してきていることに対する措置である。EU 艦隊は、Swearingem Merlin 3 海上哨戒機 2 機を、セイシェル周辺海域の対海賊哨戒活動を強化するために、海賊襲撃事案の増大が予想される 9 月にセイシェルに派遣した。

EU 艦隊には 9 月末現在、スペイン、ドイツ、フランス、ギリシャ、イタリア、スウェーデン、オランダ、ノルウェー、ベルギー及び英国の戦闘艦が参加しており、フィンランドも参加を予定している。各国の戦闘艦はフリゲートが主体で、そのほとんどが艦載ヘリを装備している。スペイン、ドイツ及びフランスは海上哨戒機を派遣している。他に、スイスは、EU の加盟国ではなく、また内陸国だが、35 隻の自国籍商船隊を保有しており、スイス向け物資の約 30% がアデン湾を通航していることから、EU 艦隊に軍要員と専門家を派遣することになっている。また、クロアチアは、費用自前で EU 艦隊の指揮下で活動することを条件に、EU 艦隊に参加することに合意している。

(2) NATO

NATO 国防相会議は 2008 年 10 月 9 日、NATO 艦隊をソマリア海域に派遣することを決定した。NATO 艦隊は、イタリアのナポリに司令部を置く、Standing NATO Maritime Group 2 (SNMG 2) から派遣され、10 月 27 日から、Operation “Allied Provider” を発動した。その任務は、国連世界食糧計画 (WFP) の食糧支援船の護衛とソマリア海域で哨戒活動である。NATO 艦隊の任務は、2008 年 12 月から EU 艦隊に引き継がれた。

NATO は 2009 年 3 月末から、作戦名 Operation “Allied Protector” として、海賊対処任務を再開し、6 月 20 日まで実施した。

NATO は 8 月 17 日、新たな海賊対処作戦、Operation “Ocean Shield” を開始した。同日付の NATO News によれば、Operation “Ocean Shield” では、海上における海賊対処行動に加えて、要請があれば、域内諸国の海賊対処能力構築も支援する。これは、国際的な能力構築努力を補完するもので、「アフリカの角」周辺の海上安全保障情勢の改善に貢献するものである。ポルトガルのリスボンにある Allied Joint Command Lisbon が全体の作戦統制を担当し、英国のノースウッドにある Maritime Component Command Headquarters Northwood が日々の作戦行動を統制する。派遣艦隊は、SNMG2 で構成され、英国、イタリア、ギリシャ、米国及びトルコの戦闘艦で構成されている。

(3) 多国籍合同任務部隊、CTF-151

ソマリア周辺海域は、バーレーンに司令部を置く米海軍第 5 艦隊の管轄海域で、同艦隊は、アデン湾、紅海、オマーン湾及びインド洋東部にまたがる海域を管轄海域としている。バーレーンには、対テロ活動に参加する多国籍海軍部隊、合同海軍部隊 (Combined Maritime Forces: CMF) があり、米第 5 艦隊司令官は合同海軍部隊司令官でもある。この海域で、第 5 艦隊は、対テロ活動に参加する合

同海軍部隊と共に、アフガニスタンにおける「不朽の自由」作戦に伴って、海上からのテロリストや武器の流入を阻止するために、合同任務部隊、CTF-150 (Combined Task Force-150) を編成し、第5艦隊の管轄海域において海上治安活動 (Maritime Security Operation: MSO) を実施している。海上自衛隊の補給支援は、CTF-150 の艦艇を対象としている。

しかしながら、CTF-150 の本来任務が MSO の実施であることから、CMF は 2009 年 1 月 8 日、海賊対処に特化した任務部隊、CTF-151 を新編した。1 月 8 日付けの CMF の Press Release によれば、CTF-151 は、アデン湾、アラビア海、インド洋及び紅海とこれら周辺海域において、対海賊任務を遂行する多国籍海軍任務部隊で、海洋秩序を確立すると共に、海洋環境の安全を促進するために設置された。CTF-151 は、EU 加盟国、NATO 加盟国以外の諸国による派遣戦闘艦受け入れの国際的枠組みとして機能しており、2009 年 9 月現在、米国、英国及びトルコに加えて、シンガポール、オーストラリア及び韓国から派遣された海軍戦闘艦が参加している。

(4) 日本

日本は 2009 年 7 月 28 日より、第 2 次派遣艦隊が海賊対処法に基づく対処活動を開始しており、新法の下で、外国籍船も護衛対象になっている。防衛省の HP によれば、海賊対処法に基づく護衛活動が開始された 7 月 28 日から 9 月 30 日までの約 2 カ月間における第 42 回護衛(海賊対処行動第 1 回) から第 64 回護衛 (同第 23 回) の護衛船舶の内訳は、以下の通りとなっている。

* 累計護衛隻数 150 隻: 「日本籍船」1 隻、「我が国の船舶運航事業者が運航する外国籍船」57 隻 (内、「日本人船員が乗船する外国籍船」4 隻)、「その他の外国籍船」92 隻

(5) その他の派遣国

上記の EU 艦隊、NATO 艦隊及び CTF-151 に参加している国以外に、ソマリアの海賊対処に海軍戦闘艦や海上哨戒機を派遣している国は、インド、中国、マレーシア、ロシア及びイランである。

また、域内の周辺諸国、イエメン、ケニア及びセイシエルは自国の領海及び EEZ 内で哨戒活動実施している。アラブの 11 カ国は 2009 年 6 月 29 日、海賊対処のためのアラブ諸国任務部隊を創設するために協議した。このサウジアラビア主導の任務部隊には、バーレーン、ジブチ、エジプト、ヨルダン、クウェート、オマーン、カタール、スーダン、アラブ首長国連邦及びイエメンが参加する予定という。

5. 海賊対処における今後の課題

この問題には 2 つの側面がある。1 つは海賊襲撃事案への対処であり、もう 1 つはソマリア国内の安定、海賊根絶の根本的解決策の追求である。

海賊襲撃事案への対処については、これまで見てきたように、累次の国連安保理決議に従って、主要海運国はソマリア周辺海域に海軍戦闘艦や海上哨戒機を派遣し、アデン湾を中心に哨戒活動を実施してきている。確かに、海賊事案が多発する海域における海軍戦闘艦や海上哨戒機のプレゼンスは、海賊に対する抑止効果が期待されよう。これまで、EU 艦隊や NATO 艦隊の戦闘艦やロシア海軍の戦闘艦は、海賊襲撃事案の現場で海賊容疑者を拘束したり、武器を押収したりしてきた。また、フランスと米国は、人質解放に当たって、武力を行使してきた。

前出のノースウッド准将は、各国海軍の戦闘艦が襲撃現場で如何に対応できるかについて、以下のよう述べている。

①商船が海賊に襲撃された場合の救出の可能性については、該船のブリッジから視認できる距離で海賊を発見した場合、全てが終わるまで 10 分余りである。もし該船が海賊の乗り込みを阻止するた

めにバリケードを築いたり、居住区に立て籠もったりして、30～40分の時間を稼ぐことができれば、各国海軍の戦闘艦、搭載ヘリあるいは海上哨戒機が現場海域に駆けつけ、支援できる可能性が非常に高くなる。

②商船が海賊に襲撃された場合、該船の船長は通常、救難信号を発信する時間があり、この信号は、ドバイにある英海軍の the UK Maritime Trade Office (UKMTO) でキャッチされ、各国海軍の戦闘艦に通報される。しかしながら、該船がハイジャックされてしまえば、戦闘艦にできることは多くない。海賊は、時には数か月にも及ぶ解放交渉の間、人質とした乗組員や積荷は大切に扱う。

更に、2009年に入ってから、襲撃海域がインド洋に拡散してきており、EU艦隊が活動海域をインド洋にまで拡大したり、またインド海軍がセイシエル近海における哨戒活動を強化したりしているが、アデン湾に加えて、インド洋のような広大な海域において各国が密度の濃い哨戒活動を展開し、維持することは事実上不可能である。その上、加盟各国に海軍戦闘艦の派遣を要請した、国連決議の期限は2009年末までである。現状では、期限が延長される可能性が高いが、各国が自前の費用で何時まで派遣を継続するかは判断の難しいところであろう。

2つ目のソマリア国内の安定については、海賊問題を解決する鍵である。各国海軍の対応にもかかわらず、ソマリアの海賊襲撃事案は後を絶たない。国際社会にとって、海賊根絶の根本的解決策の追求における最大の課題がソマリア国内の安定、そして周辺諸国の capacity building であることは論を待たない。

これについても、既に処方箋を検討する体制がある程度整っており、国連を始めとして、関係各国も支援している。国連安保理決議第1851に基づいて、2009年1月14日、日米中など24カ国と5つの国際機関が国連本部で会合し、アデン湾における海賊対処行動を調整する、「ソマリア沖の海賊に関するコンタクト・グループ」(the Contact Group on Piracy off the Coast of Somalia: CGPCS)を結成した。この会合で、海賊問題を多様な側面から検討するために、4つの作業部会の設置が合意された。作業部会1は、軍事、作戦調整及び情報共有と地域調整センターの設置に関わる活動を担当し、英国がIMOの支援を得て召集する。部会2は、国連薬物犯罪事務所(UNODC)の支援を得て海賊の司法問題を扱い、デンマークが召集する。部会3は、米国が召集し、IMOの支援を得て船舶の自衛やその他の能力強化について検討する。エジプトが召集する部会4は、海賊に関わるあらゆる外交的努力の強化について検討する。最近では、9月10日に、「第4回ソマリア沖海賊対策に関するコンタクト・グループ」の会合がニューヨークで開催され、45カ国、9機関が参加した(本号、1.1 治安参照)。

また、2009年1月26日～29日に国際海事機関(IMO)とジブチ政府によってジブチで開催された会合では、西インド洋及びアデン湾における海賊及び武装強盗を抑止するための行動指針、「Djibouti Code of Conduct」が採択された。Djibouti Code of Conductは、域内署名国(ジブチ、エチオピア、ケニア、マダカスカル、モルディブ、セイシエル、ソマリア、タンザニア、イエメン)による海賊防止のための協力、モンバサ(ケニア)、ダルエスサラーム(タンザニア)及びサナ(イエメン)の3カ所にInformation Centreを設置すること、ジブチにTraining Centreを設置することなどを規定している。

しかしながら、ソマリア国内の安定については、現在のところ抜本的な解決策が見出せていない。ソマリア国内の安定のためには、国際社会の本格的介入が不可欠と見られるが、極めて困難な課題である。

(文責 上野英詞)

リンク先

Antara News	http://www.antaraneews.com/en/
AP	http://www.ap.org/
BBC News	http://news.bbc.co.uk/
Bosphorus Naval News	http://turkishnavy.blogspot.com/
China Daily	http://www.chinadaily.com.cn/
China.org.cn	http://www.china.org.cn/index.htm
CNN	http://www.cnn.com/
CSIS	http://csis.org/
Daily Mail Online	http://www.dailymail.co.uk/home/index.html
Daily Times	http://www.dailytimes.com.pk/
Defense News	http://www.defensenews.com/
Fairplay Daily News	http://www.fairplay.co.uk/
Financial Times	http://www.ft.com/home/asia
Global Times	http://www.globaltimes.cn/
Maktoob Shipping Business	http://business.maktoob.com/20090000384954/UAE_s_Eships_wins_Aussie_alumina_deal/Article.htm#
Marine Log	http://www.marinelog.com/
Maritime Security Centre, Horn of Africa	http://www.mschoa.org/Default.aspx
Ministry of Defense (防衛省)	http://www.mod.go.jp/
Ministry of Foreign Affairs of Japan (外務省)	http://www.mofa.go.jp/index.html
Mitsui O.S.K. Lines (商船三井)	http://www.mol.co.jp/menu-e.html
Naval Technology	http://www.naval-technology.com/
Navy News Stand	http://www.news.navy.mil/local/greatlakes/
PLA Daily	http://english.chinamil.com.cn/
RIA Novosti	http://en.rian.ru/
San Diego Union-Tribune	http://www.signonsandiego.com/
Shiptalk	http://www.shiptalk.com/
The Star	http://thestar.com.my/
The Sydney Morning Herald	http://www.smh.com.au/
Trade Winds	http://www.tradewinds.no/
VOA News	http://www.voanews.com/english/index.cfm
Xinhua (新華社)	http://www.xinhuanet.com/english/
中国軍網	http://www.chinamil.com.cn/

海洋政策研究財団

〒105-0001 東京都港区虎ノ門一丁目15番16号 海洋船舶ビル3F
TEL.03-3502-1828 FAX.03-3502-2033

((財)シップ・アンド・オーシャン財団は、標記名称にて活動しています)